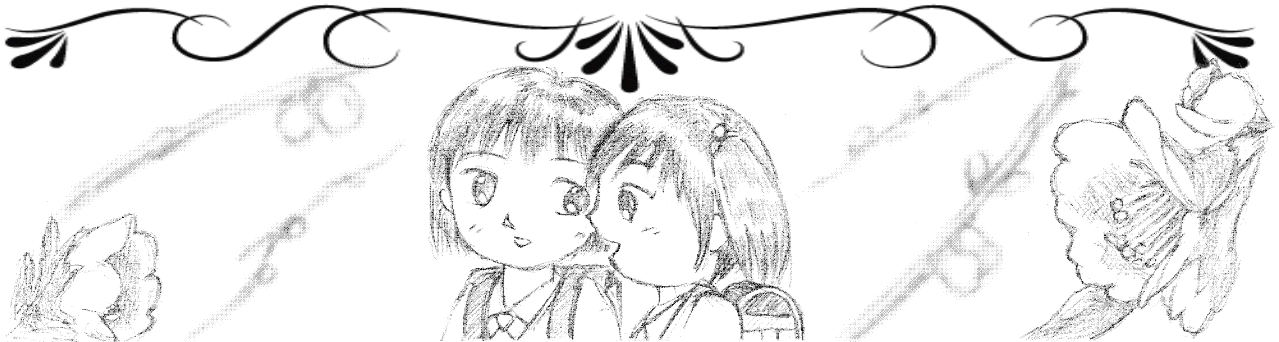


ボランティアグループがつくる和歌山県男女共同参画センターの書評誌

この本 よんだ？

～りいぶる BOOK プラス～



LEAN IN 女性、仕事、リーダーへの意欲

シェリル・サンドバーグ 著 村井章子 訳 日本経済新聞出版社 2013年 (B:労働・法律)

本書の著者であるシェリル・サンドバーグさんは、現在、ソーシャル・ネットワーキング・サービス大手のフェイスブック株式会で最高執行責任者の地位にいます。その前は、検索エンジン大手のグーグルの副社長や米国財務省主席補佐官を歴任されていました。このようなエリートの女性が、「女性たちよ、一歩踏み出そう(=LEAN IN)」と書いた本ということで、読む前は、私には高尚過ぎる内容だろうと感じていました。しかし、私でもすんなり読み進めることができ、自分の状況と重ね合わせて共感し、参考にできる部分がたくさんあったのです。

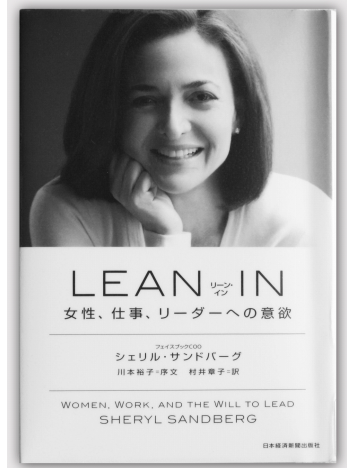
本書では、社会で女性が直面しがちな問題、特に、育児をしながら働く女性の抱える様々な問題が取り上げられています。シェリルさんはそれらに対して、自らの経験に基づく具体的なノウハウを与えてくれま

す。そして、ジェンダーや偏見の存在から目をそらしてはならない、さらに勇気を持ってリーダーを目指すべく一歩を踏み出そうと述べています。これは、

すべての人が自分の目標を決め、それに向かって躊躇なく進んでいける社会へとつながっていくのです。

この本は、シェリルさんの具体的なノウハウを参考にする為に読むのもいいし、何かに「一歩踏み出す」時に勇気を与えてもらう為に読むこともできます。男女関わらずにお勧めできる本だと思います。

(A.T)



石巻ボランティアハウスの橋本ごはん

橋本信子/INJM 著 セブン&アイ出版 2013年 (O:その他)

先の震災で、自身が被災者にもかかわらず、訪れたボランティア達に食事を提供し続けた橋本さんのインタビュー、料理レシピ、そしてボランティア達の声の本です。

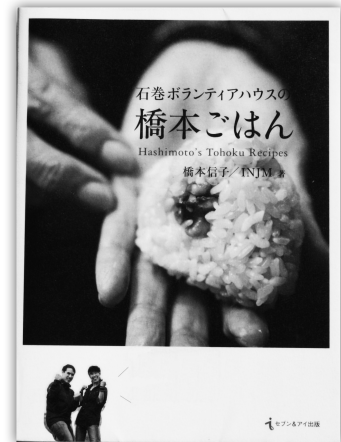
読んでみて、世の中には、エライ人がいるもんだなあと、心から感心しました。物やお金で支援、実際の力で支援、ココロで支援。このすべてを自然体で満たす人。それに、なにより、レシピが良いです！ 不安定な状況下での、目からウロコの数々。相手に喜んで食してもらいたいという気持ち、創意工夫を生む、料理のシンプルな原点を、私に思い起こさせました。

ただ、和歌山育ちの私には、東北独特の甘辛じょっぱい味付けは、なじみが薄く、

その微妙な距離感が、今の復興の遅れとも重なりました。橋本さんの活動が素晴らしいゆえに、哀しみといらだちを感じます。

本書は、食事を頂き、感謝した米国人留学生ボランティアが、出版社にかけあって、誕生したそうです。英語の対訳がついているので、読み物としても、学習系としても楽しめます。

(I.K)



「婚活」症候群

山田昌弘/白河桃子 著 ディスカヴァー携書 2013年 (C:家族・結婚)

前著『「婚活」時代』から5年。「婚活」はブームとなったが、生涯未婚率は減少していない。著者らにとっても、言いたかったことが誤解され、逆に結婚が遠のく現象さえ見られるようになったという。今回、「婚活」の名付け親である著者らによる第2弾が書かれた背景には、「もう一度大事なメッセージを伝えたい」という思いがあった。

社会学者の山田が現状を鋭く分析し、ジャーナリストの白河が婚活の限界を突破するための積極的な提言を行う。2人がそれぞれの持ち味を活かして各章を交互に執筆し、最終第7章を対談で締めくくっている。なぜ、婚活をしても、いい結果に結び

ついていないのか。本書では「夫に経済的に依存する結婚」から脱却できていないことを原因の一つに挙げている。また、婚活イベントの先進事例も多数取り上げており、効果的な婚活をしたい

人から、婚活事業を企画する側の人に至るまで幅広く役立つ内容となっている。

(O.S)



55歳からのハローライフ

村上龍 著 幻冬舎 2012年 (K:エッセイ・文学)

本書の「55歳からのハローライフ」は地方新聞に連載された中篇小説、『結婚相談所』『空を飛ぶ夢をもう一度』『キャンピングカー』『ペットロス』『トラベルヘルパー』の5編の物語が収められている。5編の物語とも、それぞれ違う主人公の好きな飲み物、アールグレイの紅茶、水、コーヒー、プーアル茶、日本茶が重要なアイテムとなっている。

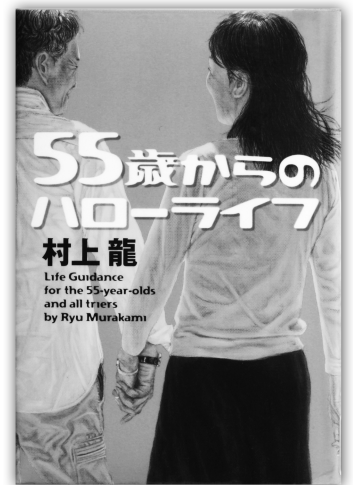
「お金や健康など、不安はある。不安だらけと言ってもいい。だが、人生でもっとも恐ろしいのは、後悔とともに生きることだ」(70ページより)

人生の折り返し点を過ぎて、5人の主人公が自分や他者と向き合いながら、人生の再出発を果たそうとしている。

著者の筆力は素晴らしく、リアルな描写や登場人物の心の葛藤に引き込まれながら読み進んでいくことができる。

確かめるためにも読んでみてください。

(K)



総理の夫

原田マハ 著 実業之日本社 2013年 (K:エッセイ・文学)

架空の話であるが、第111代内閣総理大臣に相馬凜子という初の最年少・女性総理大臣が任命された。その夫である相馬日和は、初のファースト・ジェントルマンになったことになる。それを記念して、将来誰かが読むかもしれない日記を夫が書き始めたというのが本書である。

夫・日和は相馬財閥の次男、鳥類研究所に勤めている。毎朝、鳥の観察日記を書くことを日課としている。そんなこともあり、日記には人間模様が鳥の生態に模して記述しているところがあったりしておもしろい。妻・凜子は、政治家。曲がったところのきれいな美人の少数政党の党首である。それが、野党連立政権を画策した原久郎の手により、凜子は首相にもちあげられるのである。

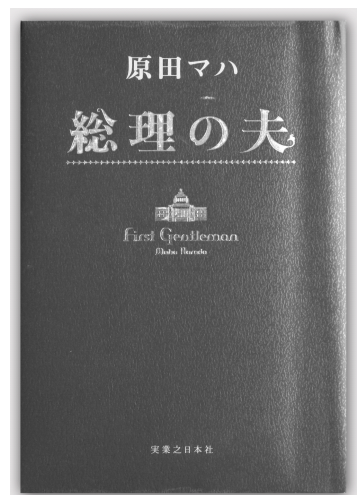
そんな「運命の女性」を手にした、総理

の夫はどうすればいいのか？ 妻の客のために、お茶をいれてあげようとしたら、秘書にやめてくれといわれる。総理官邸に

はいれば、寝室以外は全部セキュリティーがはっていてプライベートがないとか。政治のことはよくわからないけど、精神的に総理である妻を支えるという献身的な夫である。

最近では女性議員の出産・産休は認められるようになってきたが、はたして、女性総理の産休は認められるのであろうか？ 今は架空の話だが、将来実現するといいですね。

(か)



ミラノ霧の風景

須賀敦子 著 白水uブックス 2001年 (K:エッセイ・文学)

ヨーロッパへは長い船旅で行っていた時代に、著者は大卒後、単身パリそしてイタリアへ留学した。文学を専攻し、日伊文学の翻訳者となり、20代の終わりから13年間にイタリアで暮らした。

後に、「私にとってイタリアで過ごした13年は、消し去ることのできない軌跡を私のなかに残した」と述懐しているが、この若き日の軌跡の中から、やがて珠玉のエッセイの数々が生み出される。

それらはしかし、帰国して20年のちに、著者が60代になってようよう執筆されたのだが、この「ミラノ霧の風景」はその記念すべき第一作である。

ここには、深い知性に満ちた著者が若くみずみずしい感性でとらえたイタリアが、平明で端正な文章で描かれている。

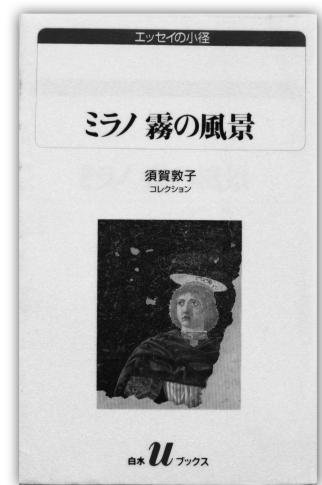
著者は偏見をもたず、出版社や書店にかかわる友人たちを大切に思い、交流を深め

た。その友人たち、個性的で魅力的でドラマチックに生きる友人たちが軸となって話は展開していく。

思いもよらない出会いの幾つかは、著者の若い人生にさまざまな影響を及ぼした。その最大は最愛のベッピーノとの結婚だったろうか。しかし、夫はわずか6年後に急逝してしまう。著者はその後帰国するのだが、夫に関しては断片的な文があるだけなので、いっそう想像力がかきたてられる気もする。

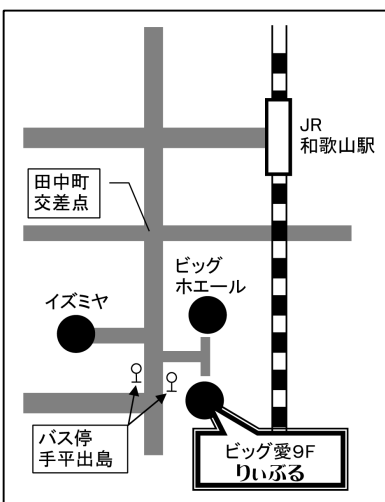
この一冊を読了すると、さらにつぎつぎとひもとき、イタリアでの軌跡を追体験したくなってくると思う。

(大空)



※“りいぶる”での分類記号一覧

A:フェミニズム B:労働・法律 C:家族・結婚 D:女性・子どもに対する暴力 E:こころ・癒し F:子育て G:からだ
H:セクシュアリティ I:女性史 J:自伝・評伝 K:エッセイ・文学 L:高齢社会・福祉 M:男性学 N:資料・雑誌 O:その他
P:AV 資料 Q:コミック R:NPO サポートセンター所蔵図書



この本 よんだ? 第5号 (2014年4月発行)

◇企画・発行 りいぶるぷらす

◇協力 和歌山県男女共同参画センター“りいぶる”

【編集後記】 今回レイアウトを新しくしてみました。いかがでしょうか？
また、感想などもお寄せください。

☆ボランティアスタッフ募集!!!

あなたも書評を書いてみませんか？興味のある方は
libreplus@yahoo.co.jp までe-mailでご連絡ください。